

FD (Faculty Development) 関連事業

<事業概要>

FD企画研究委員会の前身事業である文部科学省の戦略的大学連携支援事業やFDの義務化から13年が経過し、中央教育審議会ではFDの高度化も議論されはじめています。FD事業の運営は、FDフォーラムを担当する「FDフォーラム企画検討委員会」およびFDフォーラム以外のFD事業を担当する「FD企画研究委員会」の2委員会体制で推進しています。

<主な活動項目>

- ◆新任教員FD合同研修
 - ➡ FD合同研修プログラム（2018年度名称変更）
 - ➡ FD合同研修プログラム・テーマ別研修（2019年度名称変更）
- ◆京都FD執行部塾
 - ➡ 大学執行部塾（2018年度名称変更）
- ◆京都FDer塾
 - ➡ 京都FD交流会（2018年度名称変更）
- ◆FDフォーラム

※DI (Diffusion Index)値とは

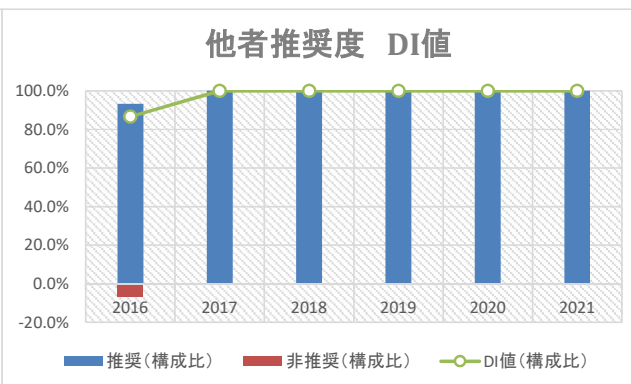
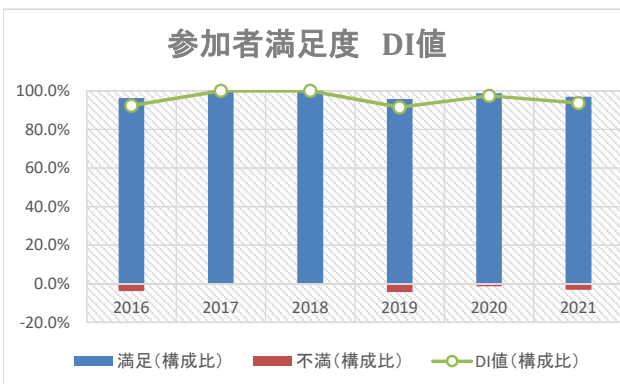
「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加（プラス）／減少（マイナス）、サーベイデータ（アンケートなど）であれば回答が良い／悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>

◆FD合同研修プログラム・テーマ別研修

<事業概要>

新任教員やFDの基礎的な事項を学び直したいと考える教員や、FD関連部署に勤務する職員、またはFDに関心のある教職員を対象とした研修プログラムで実施します。加盟校教職員が抱える問題や課題、ニーズに合った実施形態やテーマを設定しています。



参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	25	17	49	45	78	93
不満(名)	1	0	0	2	1	3
満足(構成比)	96.2%	100.0%	100.0%	95.7%	98.7%	96.9%
不満(構成比)	-3.8%	0.0%	0.0%	-4.3%	-1.3%	-3.1%
DI値(構成比)	92.3%	100.0%	100.0%	91.5%	97.5%	93.8%
参加者数(名)	31	22	63	91	100	138

他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	28	15	42	43	73	89
非推奨(名)	2	0	0	0	0	0
推奨(構成比)	93.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	-6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	86.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	31	22	63	91	100	138

＜参加者の声＞

- FD制度の導入の背景について、歴史的理解も深められた。
- オンライン授業の課題解決に向けて、他大学での取り組みや考え方を学ぶことができた。
- 歴史的背景や合理的配慮の定義や具体例など基礎的なことを詳しく理解できた。
- 全体を通し大変参考になりました。他大学の先生の発表を伺い、レポート課題や記述式試験の評価には、ループリック表で学生に自己評価させる、というやり方も取り入れたいと思いました。
- 他大学の先生の実践をもとにディスカッションするのは、学外の事情も知ることができますし、事例にもとづいた解決方法や問題発見の視点を学ぶことができるから。
- グループ協議の取り回しを明確にいただいた方が、初めての参加者にとっては安心できると思います。
- 2時間程度の時間ですと参加しやすいかと思いました。
- 20:30終了は職場から参加しているものには厳しいです。

＜参加者の声を受けて改善を図った点＞

- 2019年度に改編したFD合同研修プログラム・テーマ別研修を、引き続き実施した。実施にあたっては、参加者アンケートの結果を踏まえて、テーマや企画内容を検討し、参加者に満足いただける企画を開催した。
- 2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、すべてオンラインでの開催となった。加盟校教職員の抱える問題や課題、ニーズに合った実施形態やテーマを設定したことや、各大学の事例報告や情報共有の場を設け、オンラインツールを用いたグループワークを工夫したことにより、概ね高評価につながった。

【総 括】

2020年度は、コロナ禍の影響もあり、全6回をオンラインでの開催とした。今年度の受講者数（延137名（FD企画研究委員含む））は、昨年度（延100名（FD企画研究委員含む））を上回る結果となった。そのうち、非加盟校からの参加者は若干減少したたが、加盟校からの受講者は91名で、昨年の31名から大幅に増加し、前年度、加盟校からの参加が少ないという課題は解消されたと思われる。

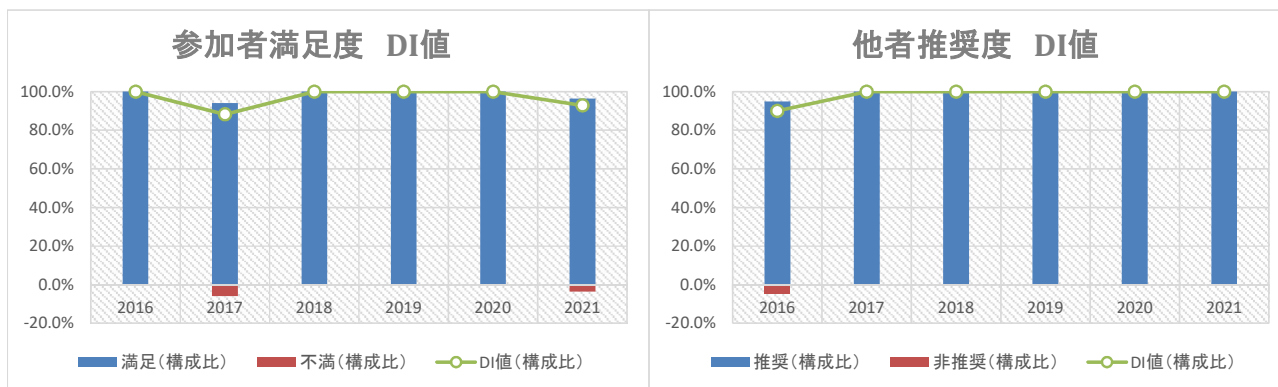
また、アンケートによる参加満足度は、全6回平均で「満足」「やや満足」の回答が約95.4%と高い評価を得た。高評価につながった要因として、FD研修の基本に立ち返った課題設定や、コロナ禍という共通の問題を抱える中、各大学の事例報告や話題提供の場を設けたことで積極的に参加でき、新しい発見につながったことなどが考えられる。

また、2020年度は、早期から全6回の申し込みを一斉に開始したことや、無料のオンライン開催としたことで、後半の企画では参加率の低下傾向が見られたが、2021年度は、非加盟校を有料に戻したことや、各回の申込開始日を開催日の概ね1か月前にとし、申し込みから当日までの期間を短縮したことで、参加率が88.6%（2020年度45.5%）と上昇した。

◆大学執行部塾

<事業概要>

各加盟校の学長等の大学執行部層を対象とする研修プログラムです。



<参加者の声>

- 新たな視点、「学習学」の重要性を知ることが出来た点。
- 短い時間に、「これからの大学」が取り組むべき教育の方向についてコンパクトにお考えを伺えたので。
- 教育改善を考える上でのヒントが多々ありました。特命を受けて、大学全体のFD活動を検討する委員になりましたので参考にさせていただきます。
- 内容にはとても賛同致しました。ただ、コロナ禍を経て、すでに多くの大学関係者は、教育の根本的前提や形態変化の必要性は十分認識しているのではないのでしょうか。まだ、そういう理解がない保守的な方々には本日の内容は刺激になったのかと思います。
- 事前資料を早めに出していただきましたが、講演で使用されたものとかかなり異なっていたため、ギリギリの配信でも構わないため、講演で使用されるものに近いものをいただけると幸いです。
- 今は難しいかもしれませんが、大学執行部の方々が交流する機会があればと思います。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

- 大学を取り巻く環境の変化等を踏まえ、各大学が抱える課題やニーズに応じたテーマの設定を図った。
- 2021年度は、オンラインで開催した。また、回線状況などにより聞き逃した部分がある方等のために、申込者限定で後日期間を限定してオンデマンド配信も行った。

【総括】

2021年度は、オンライン開催で実施した。参加者アンケートでの満足度は、「満足」63.3%、「やや満足」26.7%と高かった。自由記述欄には「短い時間に、「これからの大学」が取り組むべき教育の方向についてコンパクトにお考えを伺えた」、などの感想が寄せられ、当初掲げている大学執行部塾の目的は達成することができたものとする。

2022年度も引き続き、各大学が抱える課題やニーズに応じたテーマの設定を図る。また、コロナ禍の状況にもよるが、オンラインだけでなく、ハイブリッド開催も視野に入れ、参加者にとってより参加しやすい環境を整えていく。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	23	32	21	57	12	27
不満(名)	0	2	0	0	0	1
満足(構成比)	100.0%	94.1%	100.0%	100.0%	100.0%	96.4%
不満(構成比)	0.0%	-5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	-3.6%
DI値(構成比)	100.0%	88.2%	100.0%	100.0%	100.0%	92.9%
参加者数(名)	39	54	38	103	19	48

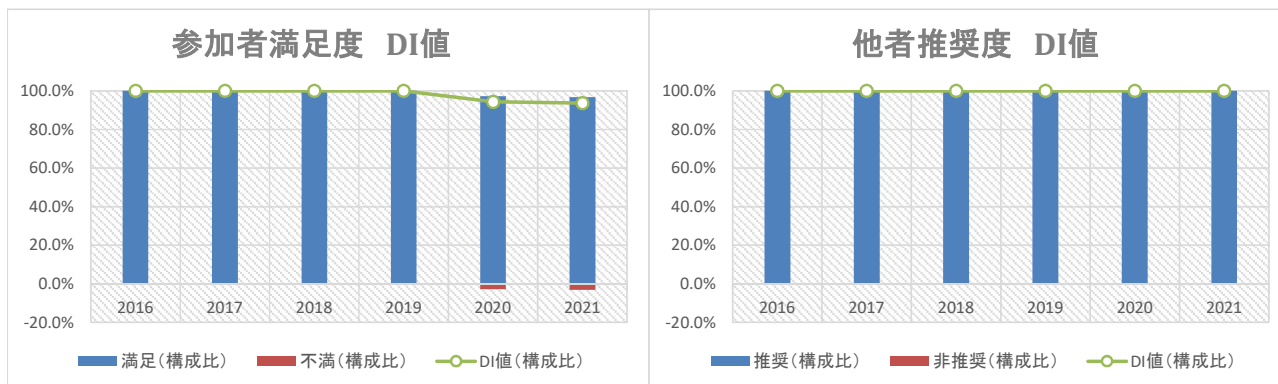
他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	19	36	17	49	12	27
非推奨(名)	1	0	0	0	0	0
推奨(構成比)	95.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	-5.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	90.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	39	54	38	103	19	48

◆京都FD交流会

＜事業概要＞

加盟校教職員のFD活動における工夫や悩みを共有しながら課題の解決に向けたヒントを探るなど、FDに関する様々なテーマのもと、加盟校の枠を越えて教職員が交流する機会を提供しています。



＜参加者の声＞

- 学修者本位の教育の実現のためにはオンラインは不可欠だと思うが、学問分野の性格に応じて教育のやり方が異なるので、それぞれの学問分野に対応したオンラインの活用の仕方があるのではないかと思った。
- 普段、フィールドワークの授業をひとりで担当しており、他の方が実施されているフィールドワークのあり方や考え方を知る機会になりました。
- 著作権に関する基本的な知識と細かなケースでの考え方を同時に知ることができたので良かった。
- 各参加者の現状の情報交換はできたが、今後のハイブリッド授業を構想する議論には至らなかった。
- 事前にプログラムが分かると、ある程度意見をまとめて参加できるかと思います。
- ワークの際に問題解決のテーマを提示してはどうか。質問の創出よりアイデアの持ち寄りの方が議論が進むかもしれない。
- 基本レジュメは当日か事前に必ず配布して、それを見ながら講演や報告等を聞くことができるようにすること。これは当然の前提だと思うのですが。それがないところで質問や意見を出せ、という感覚が理解できません。

＜参加者の声を受けて改善を図った点＞

- 2020年度の「京都FD交流会」参加者アンケートの結果を踏まえ、ニーズに応じた企画内容を検討し、さらなる充実を図った。
- 2020年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、すべてオンラインでの開催とした。
- コロナ禍の中ではあるが、本来の目的である「工夫や悩みを共有しながら、課題の解決に向けたヒントを探るなど、FDに関する様々なテーマのもと、加盟校の枠を越えて教職員が交流する機会」として実施した。

【総括】

2021年度は、コロナ禍の影響もあり、全3回をオンラインでの開催とした。
参加者アンケートによる満足度は、各々の回において、「満足」又は「やや満足」の合計の平均は95.2%であり、高い評価が得られた。
アンケートで寄せられた意見を参考に、2022年度においても、今後のテーマ選択や実施内容等についてFD企画研究委員会で検討する。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	57	62	25	66	69	61
不満(名)	0	0	0	0	2	2
満足(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	97.2%	96.8%
不満(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	-2.8%	-3.2%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	94.4%	93.7%
参加者数(名)	99	88	32	92	103	75

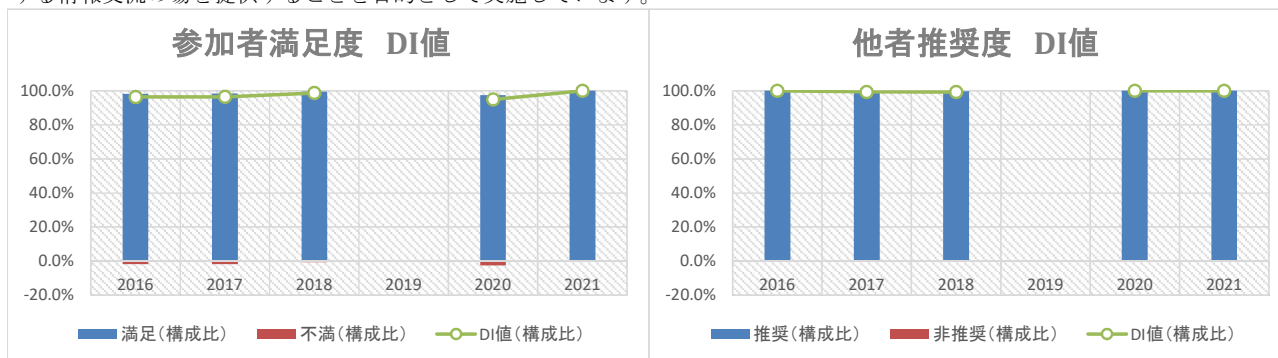
他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	63	57	25	60	63	65
非推奨(名)	0	0	0	0	0	0
推奨(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
参加者数(名)	99	88	32	92	103	75

◆FDフォーラム

<事業概要>

FD分野で関心の高まっているテーマを取り上げ、基調講演および分科会における事例報告や意見交換を通じて、FDに関する情報交流の場を提供することを目的として実施しています。



<参加者の声>

○参加したシンポジウム、分科会のいずれも、本学が抱える問題や私自身が直面している問題と共通する問題が扱われており、大変に参考になりました。
○各分科会で、異なる観点から大学教育の現状を知ることができ、いち職員として今後どのような知識を身に付けて学生とかかわっていくべきか、運営業務に携わっていくべきか考えるきっかけとなった。
○他大学、他の専門分野での取り組み例を知る機会は多くないため、勉強になりました。考え方や方法論は、状況が違ってもしっかり取り入れることができますので、よい機会でした。
○大学規模や地域性の違いはありますが、他大学でどのような視点を持ってどのような取組がされているのかを知ることができました。自分が現在携わっている業務を改めて見直し、新しく取り組めることを考えるための良い機会となりました。
○フロアからの質問がチャット上げられ、効率的に回答していただけるのは対面実施にはない良さだと思います。コロナが終わって参集型になっても、この形は継続していただくと良いと思います。
○どのオンライン研修でも同じですが、参加者と参加者の間を埋める空気感が温まらずに終わるのがオンライン研修で、夕刻の情報交換会に出るという時間の余裕と積極性がなければ、そこは補完できないのだなと思いました。現在の大学生がオンライン授業で感じていることと同じです。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

○加盟校の情報発信を重視した運営や参加者間の交流、取り組みの振り返りを行った。また、分科会の双方向的な運営などによる相互交流や、ポスターセッションによる情報発信などを重視した企画を展開した。
○引き続き関心の高いテーマを取り上げ、より多くの大学に参加を働きかけ加盟校の参加者数の増加を目指した。
○2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン開催であったが、2020年度に引き続き2回目のZoomを利用した開催で、様々な機能を活用し、参加者との活発な議論を交えることができ、充実した企画となった。反面、ハイブリッドや対面開催を希望する声もあり、今後検討していくこととする。また、配信の不具合などのため聞き逃された方のために、申込者限定で期間を区切ってオンデマンド配信を行った。

【総括】

2019年度は、コロナ禍の影響により、急遽開催中止となり、2020年度には初めて、オンラインで開催し、2021年度も全面的にオンラインで開催した。
2021年度の実参加者数は500名、4日間での延べ参加者数は1,301名であった。2020年度は実参加者数689名、延べ参加者数1,687名で、比較すると、実参加者数、延べ参加者数ともに減少となった。2020年度は参加費が無料であったが、2021年度は有料にしたことも減少の要因の一つかもしれないと考えている。
アンケート結果では、全体の満足度は、「満足」・「やや満足」が96.6%であり、昨年度の94.0%に引き続き、高い満足度であった。
オンライン開催2年目で、参加者がオンライン開催に慣れたこともあり、Zoomのチャットやブレイクアウトルーム機能を活用することで、参加者との活発な議論を交えることができた。また、シンポジウム・分科会終了後に30分程度交流会を設け、気軽な意見交換の場を設けたこともあり、最後まで充実した企画を展開することができたと考えられる。
一方、「交流のしやすさから対面開催に戻してほしい」といった意見も少数ではあるが見受けられ、またコーディネーターからも同様の要望があったことから、次年度は、分科会の一部をハイブリッド形式で開催することも検討をすすめる。
2022年度も、参加者のニーズを反映した満足度の高いフォーラムの実現に向けて検討を行う。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	368	280	316		230	85
不満(名)	7	5	2		6	0
満足(構成比)	98.1%	98.2%	99.4%		97.5%	100.0%
不満(構成比)	-1.9%	-1.8%	-0.6%		-2.5%	0.0%
DI値(構成比)	96.3%	96.5%	98.7%		94.9%	100.0%
参加者数(名)	797	651	841		689	500

他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	455	301	314		234	83
非推奨(名)	0	1	1		0	0
推奨(構成比)	100.0%	99.7%	99.7%		100.0%	100.0%
非推奨(構成比)	0.0%	-0.3%	-0.3%		0.0%	0.0%
DI値(構成比)	100.0%	99.3%	99.4%		100.0%	100.0%
参加者数(名)	797	651	841		689	500